

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第95回放送の概要 (2015年4月25日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
 たろう (佃 由晃)
 なか (中嶋邦弘)
 かりん (妹尾優香)
 あな (岸本幸恵)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」, 抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。1階コーロレではおいしいコーヒや紅茶、おいしいランチやお食事なども楽しめます。本日は「神戸ルミナスホテル」様 (TEL:078-511-7700) のご協力を頂きました。

(CM) 神戸を代表する本格中華料理の名店、神仙閣神戸店は、昭和9年の創業から今もなお、神戸の地で愛され続けており、繊細な味わいと中華の伝統スタイルを継承しながら、華やかな北京料理を提供させていただいています。兵庫高校OBの武陽会及び49陽会の皆さんも、神仙閣神戸店で、同窓会、披露宴は勿論、クラス会、祝勝会などの会合に是非ご利用ください。ご予約は神仙閣 神戸店 電話050-5789-6080までお願い致します。本日は神仙閣 神戸店様のご協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1): 山岳ガイド 笹倉孝昭さん (72 陽会)

笹倉さんは公益社団法人日本山岳ガイド協会の山岳ガイドステージⅡの資格を取得している。今日も放送直前まで高校時代からよく行っていた菊水山近くの名号岩で仕事をしていた。子供の頃から両親が登山、スキーをしていたのでよく山につれて行かれた。立山連峰、大雪渓から白馬岳、白馬大池、槍が岳から表銀座縦走、富士山などを夏休みシーズンに家族旅行の感覚で登っていた。



名号岩

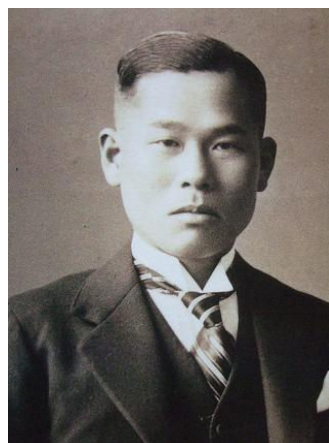
兵庫高校に入った時、両親は望んでいなかったようだが山岳部に入った。校外で活動しているため、他の生徒からは何をしているかわからないと言われた。当時の活動は月～金曜日は、学校を出て松本通りを湊川駅まで行き、夢野の三叉路を通り、近くにお墓のある住宅地を通り、長田駅の高架をくぐり、名倉小学校の前を通り、長田商店街、神社前の新湊川經由学校に走って戻っていた(約8km)。他にも高取山の山頂まで走るコース、須磨海岸を走るコースなどがあった。学校に戻ってくるとグラウンドにある階段(現在より段差が大きい)を先輩を背負い、登り降りを10セットしていた。土曜日は半日授業後、

六甲山でテントを張り、キスリングというリュックサックに石を入れて六甲山を歩いた。夏山登山までに登山者としての体を作る必要があった。30 kgを背負った最初は一人では立てなかった。歩き方がわからないので足がつったりした。当時は水分、塩分の補給が大事という考えがなかったので、我慢すると痙攣を起こした。

今は基礎トレーニングをあまりしないように思われる。当時は体力がないのに山に行くのは恥ずかしいという時代であった。山岳部で一番たたき込まれたのは取り組み方、まじめにやることであった。先輩の走っている姿、初めての登山でリュックに荷物を詰めるパッキングの仕方が手際よくきれいに仕上がるのを見て、大人でかっこいいと思った。真面目に真剣に取り組まねばならないと思った。基礎体力をつけないと山は出来ないと教えられ、ある先輩は部活が終わってから走って帰っていた。笹倉さんが十分と思っても更にトレーニングをしていた。そのような先輩の姿を見て、自分がやってきたことは中途半端であることを認識した。今の笹倉さんを作ったのは高校時代の山岳部先輩である。

登山は歩くスポーツで、一步ミスると死ぬ危険がある。スポーツは歩き方が非常に大事で、登山は特に大事である。日常の歩き方と違い歩行技術と呼べるテクニカルなものである。身につける最も早い方法は、重い荷物（30 kg）を背負い、アップダウンのきつい所を長い距離歩くことで、3~4 カ月で身につく。しかし今はそのようなことはしていない。笹倉さんがこのようにして学んだ技術は言葉で説明出来る。具体的には骨盤を両足で支えて骨盤を運ぶようにして歩くことである。このようにすると変に疲れない。人間の体のボディの中心はみぞおち、体全体の中心は臍、この2つの位置が揺らぐとモーメントがかかるので、これを防ぐために足に太い筋肉がつく。2つが動かないようにするために、骨盤を押し上げると2つの重心が1本になってモーメントが生じなくなる。重い荷物をしょっていると上から押えられるので、下から上げないと立てない。笹倉さんの教室では技術としての歩き方を言葉で説明している。

中学1年生の時に母親から加藤文太郎をモデルにした新田次郎作の「孤高の人」を読むことを勧められた。冒頭の回想シーンは高取山の頂上の石灯籠、小説の始まりは三宮の裏山で、読むと加藤さんは真面目に登山と向き合っている事、日本登山史上最強と言われる実績と素質を持った人で、六甲山でトレーニングをし、最終的にヒマラヤを目指した人である。志半ばで槍ヶ岳北鎌尾根で亡くなった。惹かれたのは、オリジナリティのある登山の取り組み、他人に迎合するのではなく登山の本質を見据えた独自の取り組みである。そして真面目なところ、本物であること、浮ついたところのないかっこ良さ、子供ながらこんな人になりたいと強く思った。笹倉さんもポケットに小魚、甘納豆を入れて登山した。



六甲全山縦走は最初に加藤文太郎が始めたと言われている。最初は自分の行っている会社の登山クラブの世話役のため時間が少なかった。後日1人で行った時は22時間で、和田岬を出発し、塩屋まで歩き宝塚まで全山縦走し、和田岬まで歩いて帰った。当時は道が整備されていない状況であった。加藤文太郎は走るのではなく、足の裏で地面を押さえ込んで腰を前に運ぶ歩き方で、歩くのがとても早かつ

た。

2. ミュージック：A sky full of stars (演奏 Cold Play)

笹倉さんがとても好きな曲です。

3. ゲストコーナー (2)

笹倉さんは、今年2月21日に放映されたBSフジの「絶景百名山」に出演されたが、大山が選ばれたのは、番組で冬の大山が紹介されていなかったこと、冬の大山をよく知っているガイドを探していたこと、番組のカメラマンが以前連載していた「岳人」を担当していた人で、笹倉さんをディレクターに紹介してくれたからである。大山を知りつくしている人は以前はいたが、笹倉さんと同世代の人は殆どいなくなっている。

番組で阪神淡路大震災の話が出ているが、これはディレクターが若い頃の写真が欲しいと言ったことがきっかけである。笹倉さんは震災で被災した時に、それまでの写真をなくしたので若い時の写真が殆どなくなった。当時、灘区の高羽町に住んでいたアパートが倒壊し、持ち出せたのは、使っていた登山用品、一部の書籍と少しの写真であった。そのような話をした時、今年は震災20年であることから番組で紹介することになった。

被災したことで人生が大きく変わった。子供の頃に、戦後何年といういい方がされることについて、時間の流れを線を書いて分けることができるのか疑問に思っていた。被災した時はそれまでの時計は明らかに止まり、その後は別の時計が動き出したと思えるくらい笹倉さん自身は変わった。震災当時、オーストラリアで1ヶ月半ロッククライミングをしていた後、震災前日の夜9時に神戸に帰ってきた。震災で計画していたことが全て出来なくなった。震災直後は実家が心配で、テント、ストーブ、水（水道が止まる前に家にあるポリタンクに溜めていた）、ガスのにおいがしていたので火気厳禁と判断し、その後匂いが消えてから冷蔵庫の卵を全て目玉焼きにしてリックサックに詰め、それらをガレキの上も走れるマウンテンバイクの振り分け式バッグに乗せ、神戸電鉄沿線の実家に行った。被害はなく母親は洗濯をしていた。水は止まるよと母親に言っても大丈夫と言う返事であったが、風呂他のあらゆる容器に水を溜めるよう説得し、終わった頃に断水した。その後実家を拠点に仕事をしたが山に行くことは出来なかった。

大山でディレクターと震災についての想いを話した。震災直後に抱え込んだことは、6,400人余りの人が亡くなり、笹倉さんはたまたま生き残ったこと、自分が生き残った理由が明確でなく、亡くなった方の理由も明確でない。生存とそうでない状態に明確な線引きが出来ないことについて、自分自身の生存があやふやで自信のないものになり、生きている事の意味が良くわからなかった。そこを乗り越え自分で納得できるまで凄く時間がかかった。登山でしか自分自身が生きている実感を感じられなかったので、少しずつ登山に戻っていった。しかしそれまでと山に対する接し方は大きく変わった。それまでの登山は自分自身の探究心だけで動いていた。震災後は周りの人に伝えることが出来るならば、少しずつ何かを伝えていきたいと思い、講習会やお客さんと山に行くようになった。

兵庫高校山岳部にはいい先輩がいたので、きつい部活で辞めようと思ったこともあるが、基本をきちり学べたことがとてもラッキーなであった。今はそのようなことを学ぶ機会が減っているので、少しでも伝えていきたいと思っている。今行っている大人の山岳部は、2006年頃から始めたもので、六甲で登山の基礎から学びましょうというもので、5回に分けて行う。1回目はミーティングで、内容は登山はゲームに分類でき、ハイキング、トレッキング、バックパッキング、マウンテニアリングで、それぞれのゲームの定義、要求される技術、日数などを解説し、定義されたゲームに基づいてブーツ、バックパックなどの道具が作られる。道具を選ぶときの情報として定義の説明をしている。その後六甲を歩く。地形図を見てルートを描き、ウェイポイント（通過点）を設け、その標高と2点間の方角を求め机

上登山をする。その記録が登山計画書になる。出発点から到着点までの時間の見積りをし、計画書に基づく登山を管理しながら行う事を4回実施する。その後テストとして、4回の経験を基に剣岳、穂高の地形図を見て登山計画をたてる、そのような教室を開いている。大事な事は計画を作り、4回の経験を通じて見積りの甘さを知り、その理由を検証し、次はいい計画を作れるようPDCAサイクルを廻すことである。従って教室は登山者としての入り口部分を体験してもらう事を目的にしている。

日本山岳ガイド協会はガイド資格の認定をしており、笹倉さんは山岳ガイドの資格とフリークライミングインストラクター資格の検定員をしている。また山岳救助組織要員に対し、富山県にある国立登山研修所研修会の講師をしている。笹倉さんの資格の山岳ガイドステージⅡは、国内はどこでもガイドが出来る資格である。富山県警の山岳救助組織は常駐隊を国内で唯一持っている。岐阜、長野、富山の山岳3県の救助活動は警察が主に行うが、他県は消防が対応する。

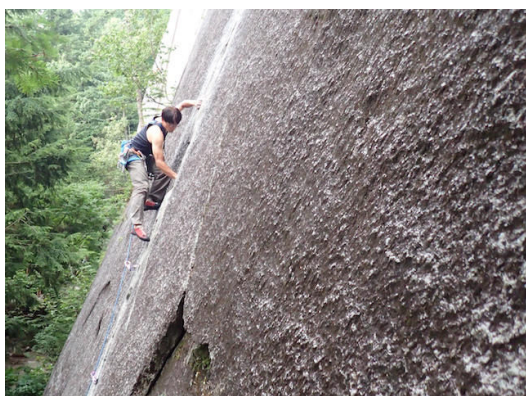
笹倉さんが昨年出版した「大人の山岳部」は、岳人で20回連載したものがベースで、登山の 카테고리分け、ウエアのレアリングシステムの基本、キャンピング技術、ロッククライミングの基礎、雪山でのシェルターの作り方、簡単な救助など登山に関するほぼすべてを網羅している。本文の最初に書いたのは、この本はマニュアルではありません、原理原則だけ書いているので、この本を読んで大事なことは、登山を積み重ねることです。そのための情報源として使って下さいという主旨の本として出版した。また少しずつ小煩くならない程度に、笹倉さんが感じた登山の取り組み方を書いている。



2015年2月オーストラリア マウントアラピリーズ



2014年2月カナダ ハフナークリークでのアイスクライミング



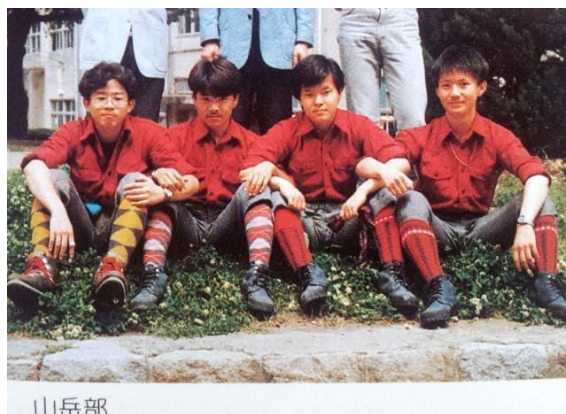
2014年8月カナダ スコウミッシュロッククライミング



2015年1月 伯耆大山「絶景百名山」撮影時の仲間



2014 年秋 国立登山研修所での研修風景



山岳部

72 陽会 (37 回生) 卒業アルバムの写真



2014 年剣岳山頂 国立登山研修所主催
大学生夏山リーダー研修会



4. こぼれた話こぼれなかった話：兵庫公立高校の学区再編での受験の傾向

- (1) 今年の兵庫県内の高校受験は、学区が16から5になりました。神戸は第1学区で、神戸市全域と芦屋市と淡路島の3市が含まれます。他の学区でも隣接の市町は第1学区内の市区の高校は受験できます。全体的に、倍率や難易度、要するに昨年の倍率が全然当てにならず合格ラインが読めないことや、競争激化、通学距離が伸びることへの懸念が言われていました。特に、私立の高校や一貫教育の中学校の受験が急増したこと、また、勉強のできる生徒には選択肢が増えるが、一部の高校に受験生が集中して合格ラインが上ったり、成績が普通の生徒が近くの高校へ通えなくなるのでは、と受験生・保護者とも心配していました。
- (2) 公立校の受験出願は、平均倍率は1.10倍で前年より僅かに増加しました。全日制普通科と総合学科の一般入試は、第1、第2志願校を選べる複数選抜で、第2志望に限り1回だけ変更が認められました。但し、第1志望には加算点が付くので有利。第1学区で主な高校の第1志望倍率は、神戸高校が1.14（昨年1.28）、夢野台高校が1.07（同1.10）、兵庫高校が1.21（同1.03）、長田高校が0.99（0.96）、兵庫工業高校（1群）が1.10（1.09）、（2群）が1.20（1.07）でした。全体的に難関校のなかで定員割れしたところがあって、学区再編の初年度ということで、出願が慎重になったことが窺えます。また、以前は学区が狭く限定されていて、駅から遠い高校に行くしかなかったのが、交通の便の良い他校へ流れて、倍率が下がる高校も出てきました。一部の高校には、第1志望第2志望併せて前代未聞の倍率になったところもできました。

(3) ただ、今回の出願で問題を残したことがあります。一般入試には複数志願選抜と単独選抜があって、志願を変更できるのは、複数志願選抜内では第2志願のみですが、専門学科（単独選抜）から複数志願選抜に変える場合は、第1志願と第2志願の選択が可能となって、後出し志願ができます。制度上は、いったん専門学科を志願し、出願状況を見た上で、本来志望している普通科や総合学科といった複数志願選抜の高校に志願変更することができたのです。いわゆる「偵察出願」があったようです。教育委員会は、志願変更にはセーフティネットの意味もあり、そんなやり方は本来の趣旨と全く違う、とコメントしています。また、こそくな手段で実力以上の高校に運良く入学しても、多分付いて行けなくて落ちこぼれるはめになるであろうとされています。

(4) 結局のところ、進学実績から競争激化が予想された高校の中でも、第1志願が予想外の定員割れになった長田高校では、ハードルが下がった、と歓迎する声があったり、逆に、倍率が上がった兵庫高校では、今回の制度に対する不満も聞かれました。特に北区からの兵庫高校への出願は狭き門となったようです。兵庫か長田か、迷っていた生徒をはじめ、今後、第1志願の志願変更もできるようにしてほしい、との要望も上っていました。

またほかに、全体的には、過去の入試データが役立たず、志望校を絞るのが難しく、志望校を安全圏に下げたり、基本的には中学校の内申点の評価の学校差の是正とか、制度の見直しを要望する声も出ました。受験できる中学校の範囲が拡大されたため、同じ中学出身の同級生が居ない入学生が多数あって、学校生活がスムーズに馴染めるか心配されています。遠距離通学の生徒たちのために、路線バスも通学しやすいように時刻表をアレンジしてくれたり、周りも対応におおわらわです。

5. 地域瓦版

(1) 向山和子 New Art「ルミ・アート」と水墨画小品展、5月3日（日）～7日（木）10時～18時、兵庫県民会館内アートギャラリー1階特別展示室で開催されます。ルミ・アートは美と光と音によるアートでオリジナル絵画は光の色調で変化し、室内にロシアの作曲家スクリャーピンとバッハの曲が交互に流れます。神戸ビエンナーレの協賛事業の一つです。

(2) 新開地音楽祭が5月9日（土）～10日（日）、12時～20時で開催されます。ゲストは9日に上田正樹さん、10日はジャズの高橋リエさんが出演します。



6. 来月のゲスト

来月5月23日のゲストは園田女子大学名誉教授の田辺真人さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>